

重点取組分野	令和4年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
学習指導	①重点研究会で、互いに受け止め合いながら対話的に問題解決し、学びを深めていく授業実践の研究を推進する。(A:年5回、児童の育ちの振り返りを行い、授業に生かしていく。B:年3回、外部講師を招いての授業研究会を行い、授業力を高める。)②学年に応じた教科分担制を推進し、専門性を生かして授業の質の向上を図る。③スキルタイムや読書タイムで基礎力の定着を図る。	①重点研究会では、授業を通して受け止め合う姿を確認し、中山小学校で育てたい子ども像を共有することができた。今後さらに自分の考えを伝えることのできる児童を増やしていきたい。②学年に応じた一部教科分担制を推進したことで、授業の質の向上が見られた。③スキルタイムや読書タイムで基礎力の定着を図ることにつながり、成果が見られた。今後、学習への関心・興味をさらに高め、学びの質を高めていきたい。	B
人権教育	①挨拶を年間重点目標に掲げ、児童会が中心となって自ら進んで心の交流を深める実践を行う。②たてわり活動や、異学年間の交流の場を毎月設定し、年間を通して豊かな学び合いができるようにする。③重点研究と運動して、互いに受け止め合い、自尊感情を高め、他者を理解する授業実践を行っている。④教職員の人権意識を高める研修会を年2回行い、児童支援や授業実践に生かしていく。	①挨拶を重点目標に掲げ、児童会があいさつリーダーなどの取組を行った。②たてわり活動や、異学年間の交流の場を毎月設定し、年間を通して豊かな学び合いができるよう設定したが、コロナ下の現状で十分ではないところもあった。③重点研究と運動して、互いに受け止め合い、自尊感情を高め、他者を理解する授業実践を行っている研究を深めた。④教職員の人権意識を高める研修会を行って人権意識の向上に努めた。	B
健康教育	①心と身体の健康維持のための情報を学校保健委員会を通して発信し、家庭での実践につなげる。②児童会保健委員会と運動し、現代的健康課題への主体的な取組を行う。③養護教諭、栄養教諭などの専門性を生かし、担任と連携して健康教育や食育の指導にかかわっていく。④コロナ禍の中でも持続可能な体力向上に向けた実践を行う。(児童保健委員会・児童運動委員会の連携・校歌の体操など)	①学校保健委員会では「メディアとの上手な付き合い方」をテーマとし、長期休業中、家庭でも実践した。②日頃から体を動かす健康的な生活を送る取り組みを実施した。③養護教諭、栄養教諭担任と連携して健康教育や食育の指導を各学年で実施した。④長な週間や校歌の体操、給食週間、栄養教諭による昼食時の食育など各校オリジナルのコロナ禍でも可能な取組を工夫して実施し、体力向上に繋がった。	B
地域・学校協働活動	①学援隊等地域との連携を深め、通学の安全見守りのほか、野菜作り、地域の歴史・行事、防犯など豊かな学びができるようにする。②小中ブロックで連携しながら、花いっぱい活動や地区懇親会、祭りなど積極的に地域活動に参加できる機会・環境をつくる。③小中ブロックで年4回の学校運営協議会を行い、学校・地域・保護者・有識者で情報共有・意見交換を行い、学校経営の評価・改善に生かす。	①登下校の見守りの他、生活科や総合的な学習に地域ボランティアや町の方々に協力していただき、豊かななかかわりの中で学習を展開することができた。②小中ブロックの連携で、花いっぱい活動・地域清掃・地域作品展の活動に参加し、積極的に地域活動に参加してきた。③小中ブロックで年4回の学校運営協議会を行い、学校・地域・保護者・有識者で情報共有・意見交換を行い、学校経営の評価・改善に生かしてきた。	A
いじめへの対応	①年3回の児童アンケートや職員会議・ブロック学年研等で児童の状況を共通理解し、チームでいじめの早期発見・対応に努める。②人権や思いやりを大切にした学級の雰囲気づくりに努める。また、教科分担制を通して、幅広い視点で子どもを見守っていく③横浜子ども会議など児童が主体となって、誰もが居心地の良い学校にするためにはどのようにすればよいのかを考え、実践していく。	①年3回の児童アンケートや職員会議等で児童の状況を共通理解し、チームでいじめの早期発見・対応に努めた。特にY-Pでは、個人プロフィールを用いてチーム学年で共有した。②授業を中心に、人権や思いやりを大切にした学級の雰囲気づくりに努めた。一部教科を分担することで、学年担任として幅広い視点で子どもを支援できた。③横浜子ども会議では、全校で同じテーマについて考え、挨拶や温かい声掛けの大切さを確認できた。また、「いじめ防止市民フォーラム」に緑区代表として参加した。	B
人材育成・組織運営(働き方)	①校内研修を計画的に行う。(人権、特別支援教育、安全・危機対応、不祥事防止等)②毎月のメンター研修で経験の浅い教員の育成と共にミドルリーダーの育成を図る。毎週の教務会では、学校運営について連絡・調整、協議を行い、学校経営参画を高める。③教職員の軽減負担を進め、児童に向き合う余裕をつくる。④グループウェアの有効活用で、会議時間を短縮する。教科分担制や時間割の工夫で放課後の授業準備等の時間を確保する。電話対応時間を勤務時間に近付ける。プール清掃や教室ワックス掛け等の外部委託を推進する。	①校内研修を計画的に行った。(人権、特別支援教育、安全・危機対応、不祥事防止、総合的な学習の時間等)②毎月のメンター研修で経験の浅い教員の育成を図り、着実な成長が見られた。ミドルリーダーの成長も著しい。教務会は学校運営の中心として機能していた。③教職員の負担軽減の取組を確実に進めてきた。会議の精選や業務の見直しにより放課後の時間を確保し、教材研究や必要な情報共有に充てることができた。	B
安全教育	①年間を通して計画的に安全指導・訓練を行う。(地震・火災避難訓練、不審者対応訓練、緊急時の保護者引き渡し訓練、台風等悪天候時の対応、交通安全教室を含む徒歩・自転車等の安全指導、登下校時の見守り指導など)②教職員の安全研修を行い、危険回避・危機対応力を高める。(不審者対応、消火訓練、体育・理科等の学習安全など)	①年間を通して計画的に安全指導・訓練を行うことができた。中休みの予告なし訓練において、子どもたちは、日頃の訓練を想起して、適切な行動をとることができた。また、長期休業明けの1週間「中小交通安全週間」と位置づけ、教職員で下校の見守りを行ってきた。②教職員の安全研修では、特に不審者対応としてネットランチャーの使い方を学んだり、火災の初期消火を想定して、実際に消火栓のホースを使って消火訓練を行うことができた。	A
特別支援教育	①児童の配慮事項や支援内容を全職員で共有する。また、一般級と個別支援級との連携の充実を図る。②個のニーズに合わせた支援を行う。困り感のある児童本人や保護者の願いを大切に。必要に応じて「個別的教育支援計画」等を作成し、支援や指導を行う。③家庭と連携し、安心して生活できる環境を整える。④ユニバーサルデザインを意識した環境づくりを行う。(教室掲示や視覚的補助の工夫など)	①配慮や支援が必要な児童について、折に触れ全職員で共有し、一般級と個別支援級の教員が連携して支援を行った。②個のニーズに合わせて、児童本人や保護者の願いを大切に「個別的教育支援計画」等を作成し、支援や指導を行った。③家庭と連携し、安心して生活できる環境づくりを行った。(教室掲示や視覚的補助の工夫など)	B
児童指導	①時代や学校のニーズに合ったスタンダードの見直しを適宜行うとともに、児童や家庭でもスタンダードを意識することができるように発信する。②職員会議等で児童理解を充実させ、子どもたちの様子を職員全体で共有する。③保護者への連絡が必要な大きなトラブル・けがなどは、学年や児童支援専任など複数で対応する。④子どもに寄り添った支援を行う。(相談、声掛け、忘れ物時の代替可能な場合の配慮など)	①毎月の職員会議の中で話題にしたり、子どもたちにスタンダードの振り返りをしたりして、スタンダードの見直しを適宜行った。家庭でもスタンダードを意識することができるよう4月の懇談会でも話題にした。②職員会議等で児童理解を充実させ、子どもたちの様子を職員全体で共有した。③保護者への連絡が必要な大きなトラブル・けがなどは、学年や児童支援専任など複数で対応してきた。④チーム学年内で情報と支援方法を共有し、対応に努めた。	B
図書館・情報教育	①図書館機能の充実を図る。(学校司書教諭・担任と学校司書との連携による環境整備、読書活動、調べ活動など学習支援、保護者の図書ボランティア・読み聞かせとの連携など)また、図書委員会による児童の主体的な読書推進活動を行う。②ICTの効果的な活用を推進する。(情報モラル学習、授業でのタブレット活用、プログラミング学習、オンライン活用など)	①保護者による図書ボランティアの取組が、読書活動を活性化している。保護者ボランティアと学校司書教諭が連絡を密にとり、なるべく例年と同じように入らせるよう、活動内容を工夫して行った。また、落ち着ける空間をつくり、本とたくさん出会う「開かれた図書館」を今後も目指していく。②情報モラル学習は特に高学年は定期的に行っている。情報・視聴覚部が中心となり、授業で効果的に活用できる方法や、使用上の注意を発信した。	A
ブロック内評価後の気付き	地区懇談会では、児童生徒と地域の代表者が集まり、「あいさつのあるまち」をテーマに各校の取組や地域とのつながりについて語り合うことができた。また、今年度より市の人権教育実践推進校となり、人権意識を高める目的で小中合同研修を行った。各分掌で情報交換を行い、小中のつながりを再確認した。こども会議やいじめ防止市民フォーラムに代表児童が参加し、ブロックの取組の発表や協議を行った。いじめ未然防止について各校で児童・生徒の意識を高めることができた。人権作文や人権標語など人権週間の取組や児童会の年間活動についてもブロック内での連携を検討していく。		
学校関係者評価	令和4年度も新型コロナウイルスの影響を受けた1年であったが、昨年度と比べて、いろいろな教育活動が実施できるようになっている。重点取組については、順調に進捗しているが、さらに、学習指導では、新学習指導要領で重視されている「児童の主体的・対話的な学び」を推進していくことが大切である。		
中期取組目標振り返り	どの重点取組も保護者から「進捗している・ある程度進捗している。」が90%を超えており、一定の評価を受けている。特に、「学習指導」「地域・学校協働活動」「安全教育」は、97%以上と高かった。学習面では、児童の評価も高く、体験的な学習、一部教科分担制授業、外部講師による授業、タブレット活用、友達との学び合いなど効果がみられた。一方、課題として「自分の考えを伝える」表現力に課題がみられる。学び合いを通して自分の考えをしっかりと伝えられるように研究・実践を高めていきたい。また、学校の取組が保護者、地域によく分かるようにさらに発信力を高めていきたい。		